

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 15 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008 ～ 2011

課題番号：20320041

研究課題名（和文）

未翻刻浄瑠璃本の網羅的調査・翻刻と複次的活用・公開に向けての基礎的研究

研究課題名（英文） Basic study on pre-reprinted Joruri books : its comprehensive survey, reprinting, and multiple utilization

研究代表者：鳥越 文蔵

(TORIGOE BUNZO)

早稲田大学・名誉教授

研究者番号：60063509

研究成果の概要（和文）：

古典芸能の人形浄瑠璃文楽で頻りに上演される演目の大方は、享保から宝暦年間（1716～1764）に初演された作品である。しかしこれまで翻刻が著しく遅れていた。本研究では、国内外の諸本を書誌調査し、十行本なども参照したうえで、現存最善の翻刻本文を提供し、国内外の演劇研究進展への貢献をめざした。成果として、義太夫節未翻刻浄瑠璃作品集第二期 10 冊を出版した。また、本文のデジタル・アーカイブ化を目標とし、本文データの整理分析を行い、近世上方語資料となる語彙索引 2 冊を作成、刊行した。

研究成果の概要（英文）：

Most of the current repertoire of the classical performative art called *jōruri* puppet plays were first performed during the Kyōhō to Hōreki eras (1716-1764). However, only a handful of the texts of the original plays have been reprinted. This research group aimed to contribute to domestic and international theater studies by producing the best reprints of the *jōruri* texts possible, through studying the various texts of each play scattered inside and outside of Japan, as well as referring to other types of texts such as *jūgyōbon* (texts with 10 lines per page that scholars have largely glossed over up until now). The ten-volume series entitled *Gidayū-bushi mihonkoku jōruri sakuhin shūsei dai ni ki (Collection of Never-Before Reprinted Gidayū-bushi Jōruri Texts - Series 2)* is the fruit of these labors. In addition, while working to make a digital archive of *jōruri* texts, the research group organized and analyzed the textual data, and published two lexicons that can be used as resources for early modern uses of *Kamigata* language.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	2,500,000	750,000	3,250,000
2009年度	2,500,000	750,000	3,250,000
2010年度	2,400,000	720,000	3,120,000
2011年度	2,500,000	750,000	3,250,000
年度			
総計	9,900,000	2,970,000	12,870,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：人形浄瑠璃文楽・浄瑠璃本・義太夫節・近世演劇・テキストデータ・近世語彙索引・書誌調査

1. 研究開始当初の背景

「人形浄瑠璃文楽」は、2003年、ユネスコの世界無形遺産に登録されるなど、今なお日本国内外から注目される芸術文化である。しかしその研究体制は極めて脆弱であった。この退勢を挽回し、学問の復興を目指すには、資料整備が必要不可欠であった。

研究代表者鳥越文蔵と研究分担者内山美樹子はこのような認識の上で、人形浄瑠璃文楽の諸資料の整備を進めてきた。

そのひとつに、興行記録を網羅的に集成して年代考証を行なった『義太夫年表 近世篇』全八冊（八木書店、1979～1990年）を編纂した。当該書は極めて専門的な資料集であるが、社会的評価も高く、完結の翌年1991年、第45回毎日出版文化賞特別賞を受賞した。

もう一方に、作品そのものの資料整備、すなわち翻刻書の刊行である。鳥越・内山はその刊行会に参加して、『近松全集』全十八冊（岩波書店、1989～1996年）を整備した。

これらの資料整備をうけて、本研究課題の分担者である内山美樹子は『浄瑠璃史の十八世紀』（勉誠社、1989年）、黒石陽子は『近松以後の人形浄瑠璃』（岩田書院、2007年）の著書をもって歴史研究や作品論を展開する。これらの専門書が、専門研究者ばかりでなく、一般読者において入門書・参照すべき概説書となるためには、未翻刻作品の解消が急務であった。

2. 研究の目的

我が国が世界に誇るべき「浄瑠璃本」文学の今日的復興を大目標とする。その基礎となるべく、日本文学研究者や専門家（人形浄瑠璃文楽の演技者や劇場関係者）への学術的貢献はもとより、当該分野に関心をもつ日本国民一般ひいては外国人研究者等へもひろく良質なテキストを提供し、以って大方の関心と叡智とを当該分野へ集めることを所期の目的とする。

3. 研究の方法

(1) 翻刻作業・公開の一層の進展

(2) 蓄積した本文データの諸活用についての討・公開

(3) 内外所在資料の書誌調査

(1)については、玉川大学出版局の協力を得て、『義太夫節浄瑠璃未翻刻作品集』シリーズ12巻をすでに公刊した(2006-2007年)。同シリーズに後続させる形で、順次公開を図る。なお翻刻の精度を上げるために、さらに資料の紙焼き

写真を収集する。

(2)については、(1)の翻刻作業によって得られた浄瑠璃本本文の電子データの、より高度な活用を目指す。具体的には日本語学上の資料に供するため、データベース化・語彙索引化を行なう。加えて国立劇場のデジタル・アーカイブ事業との連携などを視野に入れ、公開利用の方途を探る。

(3)については、国内での浄瑠璃本（通し本、いわゆる丸本）の悉皆調査がほぼ完成に向けて調査を継続する、さらに、海外所在本について、国内同様の書誌調査を行なうこととしたい。諸本調査は、全点の実見に基づくことが国文学研究上の理想である。

4. 研究成果

(1) 翻刻作業、公開の進展

享保期の未刊浄瑠璃作品の翻刻と電子入力のうち、「河内国姥火」「敵討御未太鼓」「鎌倉比事青砥銭」「楠正成軍法実録」「南都十三鐘」「和泉国浮名溜池」「梅屋洪浮名横櫛」「記録曾我玉笄」「源家七代集」「曾我錦几帳」について玉川大学出版部より『義太夫節浄瑠璃未翻刻作品集』第二期として出版することができた。

また、第三期刊行予定としている「尼御台由比浜出」「蒲冠者藤戸合戦」「本朝檀特山」「車還合戦桜」「曾我昔見台」「元日金歳越」「万屋助六二代俵」「丹州翁打栗」「傾城枕軍談」「一谷嫩軍記」の書誌調査、翻刻を完了した。さらに第四期刊行に向けて、「待賢門夜軍」「荊萱桑門築紫☆」「眉間尺象貢」「敵討檻襖錦」「釜淵双級巴」「いろは日蓮記」「赤松円心緑陣幕」「今様東二色」「太政入道兵庫岬」「本田善光日本鑑」「武烈天皇躰」「田村磨鈴鹿合戦」「花衣いろは縁起」「百合稚高麗軍記」「石橋山鎧襲」「鎌倉大系図」「入鹿大臣皇都諍電子」の書誌調査、データ本文作成を開始した。

翻刻による確実なテキストを完成するため、底本のほかに10行本を使用し、校訂作業を行った。また、各作品の担当者が、それぞれ原本調査を行うとともに、研究会を開き検討を行った。これにより、これまで重視されなかった10行本の利用価値が判明し、浄瑠璃本文確定に使用しなければならないことが明らかになった。また、副本についても十分な調査を行い、本文確定などに活かしていく必要があることがわかった。

(2) 蓄積した本文データの諸活用についての検討・公開

義太夫節正本研究会言語研究班を立ち上げ、日本語学（音韻・表記・文法）を専門とするメンバ

一によって、これまで蓄積してきた翻刻データベース(第一期 12 作品、第二期 10 作品、第三期(予定)10 作品)の解釈分析を行ってきた。

これまでに、第一期 12 冊分に対しては、単語タグ付け作業がほぼ終わった。これを活用して、語彙索引の作成を進め、「出世握虎稚物語」「鬼一法眼三略巻」については、単語認定作業が完了し、自立語索引を刊行することができた。さらに「信州姨拾山」については、単語切り出し作業を終え、単語認定作業に入る準備を整えた。

研究成果としては、表記としては、振り仮名、捨て仮名、送り仮名の体系を明らかにし、文法的には助動詞の用法の一部を明らかにした。

いずれは、近世上方語コーパスとして、公開を目指す可能性を得ることができた。

(3)内外所在資料の書誌調査

海外所在調査としては、ロンドン大学 SOAS 図書館、大英図書館、ケンブリッジ大学図書館、ハーバード大学図書館所蔵の調査のほか、米国議会図書館での 54 点の浄瑠璃本を行った。中でも米国議会図書館蔵本のうちに、包み紙、奥付も揃った善本を見出すことができた。これによって『義太夫年表近世篇』の想定に新たな裏付けを得るといふ成果が上がった。

また国内所在調査については、九州大学文系合同図書館所蔵(同大学国文学研究室旧蔵)の浄瑠璃本 139 点(分類記号:国文 K28)の書誌調査を行った。以前の報告では 131 点とのことだったが、九州大学川平敏文准教授の付添で書庫に入庫し、目視して点検した結果、義太夫節正本は 127 点が確認できた。義太夫節は、他に段物集が 2 点、関連資料として『外題年鑑(宝暦版)』2 点、『操り上り評判鶯宿梅』1 点が確認できた。また、『竹本播磨少掾口伝』の写本 1 冊があり、版本との関係は今後の検討課題である。義太夫節以外の浄瑠璃本は 6 点所蔵されており、宮古路豊後の段物集『宮古路幕の中』が含まれている。なお、今回調査した諸本のうち昭和 33 年から 38 年の購入分については、表紙見返しに書肆名と価格が鉛筆で書き込まれており、昭和 30 年代の浄瑠璃本流通の実態を裏付ける資料として貴重である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 15 件)

飯島満「文楽忠臣蔵四段目の由良助」『歌舞伎研究と批評』, 査読無, 40,2008,28-44

黒石陽子「仮名手本忠臣蔵の作者たち」『歴史と古典』, 査読無 10,2008,84-101

坂本清恵「近世語と文楽」『国文学 解釈と教材の研究』, 査読無 2008 年 10 月号, 2008,114-121

黒石陽子「人形浄瑠璃と近世軍書」『江戸文学』, 査読無 41,2009,110-120

内山美樹子「文楽のこぼの現在」『文学』, 査読無 2011 年 3・4 月号, 2011, 48-58

内山美樹子「並木宗輔作「和田合戦女舞鶴」の構想と「吾妻鏡」」『芸能史研究』, 査読無 190,2010, 1-19

内山美樹子「無形遺産の一部、文楽「顔付」の存続を」『芸能史研究』, 査読有,193,2011,50-51

内山美樹子「副本書入れをめぐる」『義太夫節正本研究会 翻刻凡例』, 査読, 2012, 2-4

黒石陽子「曾我会稽山」における曾我十郎一幸若舞『夜討曾我』「紋つくし」の活用をめぐる一」『文学』, 査読無, 2011 年 2・3 月号, 2011,79-89

黒石陽子「古浄瑠璃『ゆいせき諍』曾我物語かわづまたのすまひろん』の特色一叙事文学の演劇化一」『東京学芸大学紀要 人文社会科学系 I』, 査読無, 68, 2012, 137-147

原田真澄「太閤記物人形浄瑠璃における小野お通一賤ヶ岳物と「三日太平記」を中心に一」演劇博物館グローバルCOE紀要「演劇映像学2010」, 査読無, 2011

坂本清恵「浄瑠璃本の単語認定一仮名の用字と清濁について一」『論集』, 査読無, 6, 2010, 1-24

原田真澄「傾城枕軍談」試論一七草四郎と嶋勘左衛門の人物造形をめぐる一」早稲田大学演劇博物館グローバル COE プログラム紀要『演劇映像学』2011, 査読有, 4, 2011, 23-44

小島智章・児玉竜一・原田真澄「鴻池幸武宛て豊竹古朝太夫書簡 二十三通一鴻池幸武武智鉄二関係資料から一」早稲田大学演劇博物館紀要『演劇研究』, 査読有, 35, 2012

児玉竜一・中尾薫・原田真澄「アルベール・カン博物館所蔵日本演劇関係オートクロームおよびフィルムについて」早稲田大学演劇博物館グローバル COE プログラム紀要『演劇映像学』2011, 査読有, 4, 2012, 159-77

〔学会発表〕(計 9 件)

内山美樹子「並木宗輔「和田合戦女舞鶴」の構想と「吾妻鏡」」『芸能史研究会』第 33 回東京例会, 2009 年 12 月 6 日

内山美樹子「日本のシェークスピア 並木宗輔と三原」三原市・三原市文化協会文化講演会, 2011 年 1 月, 広島県三原市ペアシティ三原西館大会議室

内山美樹子「文楽フィルム『日本の人形劇一人形浄瑠璃』について」『日本伝統演劇の映像資料・音声資料に関するパネルディスカッション』国際演劇学会, 2011 年 8 月 11 日, 大阪大学豊中キャンパス

内山美樹子「文楽フィルム『日本の人形劇一人形浄瑠璃』と大正十年七月有楽座文楽公演」早稲田大学演劇博物館グローバルCOEプログラム「演劇・映像の国際的教育研究拠点主催『国際シンポジウムACTING一演じるということ』, 201

2年1月28日, 早稲田大学国際会議場

飯島満「Japanese Classical Theater and Audio Materials: The Case of Bunraku Puppet Plays」国際演劇学会, 2011年8月11日, 大阪大学豊中キャンパス

原田真澄「Popularity of the Ningyô Jôruri Bunraku Drama of Taikôki-mono Genre and Konoshitakage Hazama Gassen (人形浄瑠璃文楽の太閤記物流行と「木下蔭狭間合戦」)」Colloque international Pourquoi le théâtre? - sources et situation actuelle du théâtre - (国際シンポジウム「なぜ演劇か」) 2011年2月, Palais Universitaire

坂本清恵「Variations of Regional Accent in the Japanese Puppet Theater」2010年5月13日, University of Washington

坂本清恵「浄瑠璃本の仮名」『歌舞伎学会』2010年12月12日, 日本女子大学

原田真澄「太閤記物人形浄瑠璃作品に表われた謀叛——「絵本太功記」を中心に」『日本演劇学会』秋の研究集会 2011年12月4日, 早稲田大学

〔図書〕(計14件)

内山美樹子『文楽二十世紀後期の輝き 劇表と文楽考』早稲田大学出版部, 467p, 2010

坂本清恵・佐藤麻衣子・上野左絵『出世握虎稚物語 自立語索引』義太夫節正本研究会 言語研究班, 256p, 2010

鳥越文蔵編・桜井弘担当『河内国姥火』, 義太夫節浄瑠璃未翻刻作品集, 玉川大学出版部, 2010

鳥越文蔵編・湊田裕介担当, 『敵討御未刻太鞍』義太夫節浄瑠璃未翻刻作品集, 玉川大学出版部, 2010

鳥越文蔵編・山之内英明担当『鎌倉比事青砥銭』, 義太夫節浄瑠璃未翻刻作品集, 玉川大学出版部, 2010

鳥越文蔵編・山之内英明担当, 『楠正成軍法実録』義太夫節浄瑠璃未翻刻作品集, 玉川大学出版部, 2010

鳥越文蔵編・川口節子担当『南都十三鐘』, 義太夫節浄瑠璃未翻刻作品集, 玉川大学出版部, 2010年

鳥越文蔵編・田草川みずき担当『和泉国浮名溜池』, 義太夫節浄瑠璃未翻刻作品集, 玉川大学出版部, 2010

鳥越文蔵編・東晴美担当『梅屋洪浮名色揚』義太夫節浄瑠璃未翻刻作品集, 玉川大学出版部, 2010

鳥越文蔵編・飯島満担当『記録曾我玉笄鬘』, 義太夫節浄瑠璃未翻刻作品集, 玉川大学出版部, 2010

鳥越文蔵編・黒石陽子担当『源家七代集』, 義太夫節浄瑠璃未翻刻作品集, 玉川大学出版部, 2010

鳥越文蔵編・山之内英明担当『曾我錦几帳』, 義太夫節浄瑠璃未翻刻作品集, 玉川大学

出版部, 2010

佐藤麻衣子・上野左絵・坂本清恵『『鬼一法眼三略巻』自立語語彙索引』義太夫節正本研究会言語研究班, 338p, 2011
義太夫節正本研究会編『義太夫節正本研究会 翻刻凡例』義太夫節正本研究会, 36p, 2012

〔産業財産権〕

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鳥越 文蔵 (TORIGOE BUNZO)

早稲田大学・演劇博物館・名誉教授

研究者番号: 60063509

(2) 研究分担者

内山 美樹子 (UCHIYAMA MIKIKO)

早稲田大学・名誉教授

研究者番号: 30063704

飯島 満 (IIJIMA MITSURU)

東京文化財研究所・無形文化遺産部音声映像記録研究室・室長

研究者番号: 90392547

黒石 陽子 (KUROISHI YOKO)

東京学芸大学・教育学部・教授

研究者番号: 40247268

原田 真澄 (HARADA MASUMI)

早稲田大学・演劇博物館グローバル COE・助手

研究者番号: 40580444

坂本 清恵 (SAKAMOTO KIYOE)

日本女子大学・文学部・教授

研究者番号: 50169588

(3) 連携研究者

(0)